

上泉伊勢守信綱の生涯と時代背景

上泉伊勢守信綱略年譜	当時の時代背景（新・国史大年表・日置英剛編）
1508年(永正5年)上泉城主、上泉義綱の次男として誕生。	1508年(永正5年)甲斐の国統一される。 1515年(永正12年)北条氏康誕生。 1516年(永正13年)北条早雲、三浦義同父子を破る。 1521年(大永元年)武田信玄誕生。 1524年(大永4年)上杉憲房、武田信虎甲斐の国猿橋で合戦。北条氏綱、武田信虎和睦。
1521年(大永元年)鹿嶋の松本備前守の下で修行。(13歳)	1530年(享禄3年)享禄天文の乱。上杉謙信誕生。 1531年(享禄4年)上杉憲政関東管領になる。堺の大繁栄。 1534年(天文3年)織田信長誕生。 1536年(天文5年)延暦寺など法華宗徒討伐。日蓮宗禁止。 1537年(天文6年)この頃の木製総義歯、現存最古。豊臣秀吉誕生
1524年(大永4年)兄、主水左が死去。鹿嶋神流を継いで帰郷。(16歳)	1541年(天文10年)武田信玄家督相続。 1542年(天文11年)徳川家康誕生。 1543年(天文12年)ポルトガル人による、種子島に鉄砲伝来。 1547年(天文16年)徳川家康(竹千代)人質となる。 1549年(天文18年)上杉謙信春日山城入城、家督を継ぐ。フランスコサビエル鹿兒島に上陸。
1528年(大永8年)上泉城主となる。旧小田原城主の末孫娘と結婚。(20歳)	1550年(天文19年)鉄砲で戦死。大砲の伝来。 1553年(天文22年)武田信玄、上杉謙信第1回川中島合戦。 1554年(天文23年)武田、北条同盟。 1555年(弘治元年)第2回川中島合戦。 1557年(弘治3年)第3回川中島合戦。 1558年(永禄元年)天皇正親町。征夷大將軍足利義輝。徳川家康の初陣。
1531年(享禄4年)愛洲移香齋が陰流を相伝。(23歳)	1560年(永禄3年)織田信長、桶狭間の戦いで大勝。 1561年(永禄4年)上杉謙信関東管領。謙信、北条氏康の小田原城を攻撃。織田、徳川同盟。第4回川中島合戦、信玄の弟信繁戦死。 1563年(永禄6年)武田、北条軍上野の国、武蔵の国の諸城を攻撃。 1564年(永禄7年)信玄、謙信第5回川中島合戦、謙信越後へ引き、信玄微勝。 1565年(永禄8年)將軍義輝、三好義継らに攻められ死亡。 1567年(永禄10年)信長、齋藤竜興の稲葉山城を攻略する。 1568年(永禄11年)征夷大將軍足利義昭。 1570年(元亀元年)信長家康軍と浅井朝倉軍が姉川で合戦 1571年(元亀2年)信長、比叡山延暦寺を焼き討ち。 1573年(天正元年)室町幕府滅亡、浅井朝倉氏滅亡。武田信玄死去。
1538年(天文7年)陰流愛洲移香齋が死去。(30歳)	1574年(天正2年)醤油の製造始まる。秀吉、長浜城入城 1575年(天正3年)信長、家康軍と武田勝頼が長篠で合戦武田軍敗れる。 1576年(天正4年)信長安土城を築く。長崎に南京芋移入 1577年(天正5年)秀吉中国平定に向向。 1578年(天正6年)上杉謙信死去。 1582年(天正10年)ローマに天正偉歌使節出航。本能寺の変信長自害。武田勝頼一族自害し武田家滅亡。
1540年(天文9年)この頃新陰流を創始。袋竹刀を考案。(32歳)	
1546年(天文15年)北条氏の兵法師範となる。北条綱成の娘と再婚。父、上泉義綱死去。(38歳)	
1550年(天文19年)剛勇安中左近を破り「上野の国一本槍」と称される。(42歳)	
1555年(弘治元年)北条氏に大胡城上泉城を開城、この頃謙信に通じ大胡、上泉城を奪還。箕輪城主長野業政と共に武田軍と戦う。(47歳～50歳)	
1558年(永禄元年)丸目蔵人佐を破る。(50歳)	
1561年(永禄4年)長野業政死去。(53歳)	
1563年(永禄6年)武田信玄に敗れ箕輪城落城。廻国武者修行に出る。(55歳)	
1564年(永禄7年)將軍足利義輝の前で上覧試合(56歳)	
1565年(永禄8年)柳生宗巖に新陰流を印可する(57歳)	
1570年(元亀元年)正親町天皇の御所で、天覧の兵法演武。(62歳)	
1571年(元亀2年)將軍足利義昭、山科言継らに兵法をさずける。この頃帰郷。(63歳)	
1574年(天正2年)小田原、北条氏政の招きで兵法軍学師範となる。(66歳)	
1582年(天正10年)この頃死去。(74歳)	

地域づくり通信第23号(特別号)

地域再発見 劍聖上泉伊勢守信綱

編集・発行 桂萱地区地域づくり推進協議会 広報啓発部門 事務局(桂萱公民館内) TEL261-0111 FAX261-2631

平成29年1月15日(2017年)
桂萱地区地域づくり推進協議会
テーマは「住みよい桂萱づくり」

わたしたちの郷土の偉人を特集しました 新陰流の創始者となった上泉伊勢守信綱

かつて真剣勝負などで相手を殺傷することが少なくなかった時代に、無刀で勝つことまで考え、兵法の世界において大きな目標とされたスーパースターのような上州人がいた。

新陰流を生み出し、それを広めて「劍聖」と呼ばれた上泉伊勢守信綱である。



■伊勢守は室町時代末期の1508(永正5)年、上泉城主上泉義綱の次男として生まれた。幼名を源五郎、後に秀綱、さらに信綱と改名する。

祖先は名門大胡氏を支援するため京都から来た一色五郎義秀という。親戚の大胡氏を再興後に上泉城を造って移り住み、上泉姓を名乗った。伊勢守の曾祖父になる。

■伊勢守は幼少のころから体格がよく、5歳で兵法の稽古を始め、東国有数の達人であった父と祖父から諸流派の手ほどきを受けた。12歳くらいで早くも父祖の剣術を超えるまでになった。このため常陸国(今の茨城県)鹿島へ派遣され「鹿島の鬼」と呼ばれた松本備前守に入門したが4年後には「鹿嶋神(傳)流」を伝授された。

20歳で結婚し、早世した兄に代わって「従5位下伊勢守」の叙位を受け、上泉伊勢守秀綱を名乗ることになり、城を受け継いだ。

■新陰流について、伊勢守は「中古、念流、新当流またまた陰流有り、その外は計るに耐えず。予は緒流の奥義を究め陰流において別に奇妙を抽出して新陰流と号す」と自ら書いている。新陰流は、斬りあい理論付け体系化したもので、当時としては画期的なものであった。陰流は愛洲移香齋から学んだとみられている。

■当時は応仁の乱に始まった戦国の世であり、上州も関東管領の地位をめぐる争いに巻き込まれ、さらには北から長尾氏、西から武田氏、南から北条氏がそれぞれ攻め込んだりしていた。伊勢守は妹が嫁いだ箕輪城主長野業政に協力して武田勢と戦ったが、業政が没すると箕輪城は落城した。業政の子業盛は19歳で自ら命を絶った。

■伊勢守はその武勇を知った武田信玄から招請があったが固辞し、他家に仕えないことを条件に、許しを得て、新陰流を広めたりするため2人の高弟と京への旅に出た。その途中、尾張国(今の愛知県)では子どもをさらって民家に立てこもる賊を無刀で捕らえた。また、奈良興福寺の宝蔵院で、畿内有数の兵法者といわれる大和(今の奈良県)・柳生の庄の柳生石

舟斎宗巖と試合をした。3日間の3度の試合で敗れた宗巖はすぐに伊勢守に入門し稽古に励んだ。伊勢守は翌年、翌々年にも柳生の庄を訪れており、宗巖の成長を見届けて新陰流を印可相伝した。その新陰流は「懸待表裏は一隅を守らず」「活人剣」などの教えと技からなっており、宝蔵院胤栄、丸目蔵人佐にも印可を与えている。

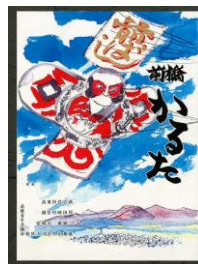
■1564（永録7）年には時の将軍足利義輝の前で上覧試合を行って感状を贈られ、さらに1570（元亀元）年に正親町天皇の御前で新陰流の演武を行い、即日、従5位下から征夷大將軍の足利義輝と同じ「従4位下」に昇叙された。稽古で怪我などをすることの多い木刀に代わる用具として、袋竹刀を考案したのも伊勢守である。

■伊勢守の新陰流のすごさは、その後の江戸時代260年間にわたり柳生家が徳川將軍家の指南を務めて、泰平な社会を支えたことからも知ることができる。



伊勢守を今に伝えるもの

1、伊勢守については、皆さんもご存知のように、わが「前橋かるた」に、「劍聖 上泉伊勢守」という札があります。



2、諏訪神社にて上泉の獅子舞があります。



毎年10月中旬の日曜に行われる「上泉獅子舞」は、諏訪神社の祭りのときに奉納されています。今年は10月16日に開催されました。

現在、使われている獅子頭・笛等は伊勢守が奉納したものといわれています。五穀豊穰と町の繁栄の願いが込められた獅子舞の特徴は、非常にテンポのゆっくりとした優雅な舞です。

現在、前橋市指定重要無形文化財として上泉獅子舞保存会によって継承されています。

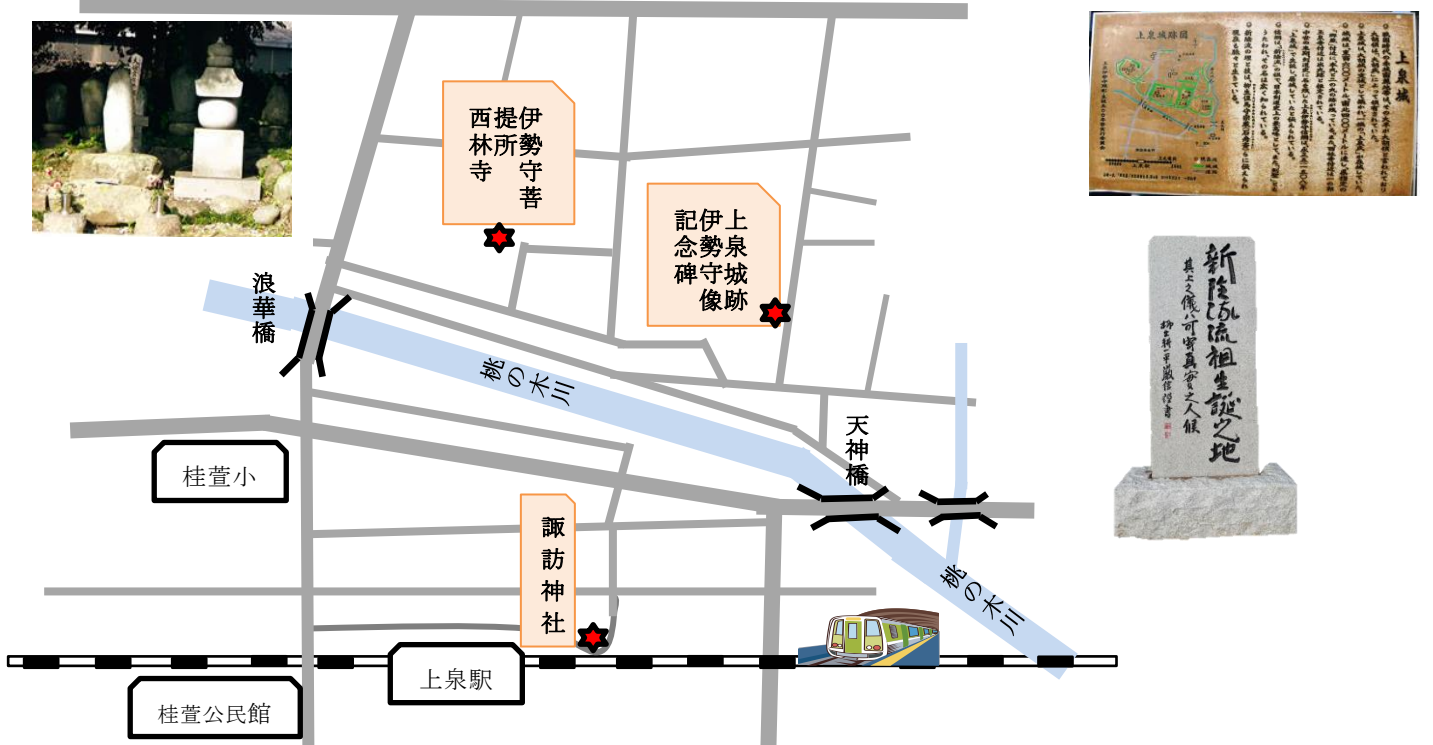
3、伊勢守について語り継がれていることの一つに、無刀取りの実話の残る尾張（愛知県一宮市）の妙興寺での逸話が残されています。この逸話は、黒澤明監督の有名な映画「七人の侍」で使われた話です。

その逸話は、たとえば「剣豪という生き方」（本山賢司著。2010年、東京書籍、p.209）によれば、『本朝武芸小伝』（江戸時代中期の書物）に採録されている、次のような話です。「永禄6年（1563）上泉は疋田豊五郎、神後伊豆守らとふたたび上洛する。その途中、尾張の妙興寺にさしかかり、ある事件に遭遇する。賊が村の子どもをさらって民家にたて籠もったというのだ。上泉は居あわせた僧に法衣をかり、剃髪した。僧になり済ました上泉は握り飯も用意させて、乱心した賊に「餓えている子どもに握り飯を食べさせろ」といって投げつけ、賊が受けとろうとした瞬間の隙をねらって賊を捕らえた。」

映画「七人の侍」では、志村喬が演じる島田勘兵衛という初老の浪人が、僧に扮して賊から子供を救出するという場面です。脚本家の橋本忍さんも、このモデルは伊勢守だと語っているそうです。

4、伊勢守を主人公としたテレビドラマの製作発表が行われました。タイトルは「劍聖 上泉伊勢守信綱物語」（仮称）で今春2時間ドラマとしてBS放送する予定で、伊勢守の功績と群馬の魅力を広めるなどの期待がされています。

上泉伊勢守ゆかりの地を訪ねてみよう！



箕輪城跡（高崎市箕郷町）



大胡城跡（前橋市河原浜町）

